

国際会議から 第13回国際応用地質学会 (XIII IAEG Congress)

本国際会議は、応用地質学に関する世界最大の会議です。1970年にパリで第1回目の会議が開催された後、4年に1回開催されており、第13回目となる今回は、「持続可能な世界のための応用地質」をメインテーマとして、サンフランシスコで開催されました。本会議では、トンネル、斜面災害、ダム、地下水、環境汚染などに関する40を超えるセッションがありました。

筆者は、インフラストラクチャーのための地質技術に関するセッションにおいて、降雨予測値を用いて浸水発生予測などを行い、これを鉄道の減災につなげる研究成果について発表しました。会場からは、浸水発生予測から現象発生までの余裕時分（リードタイム）など、実用化するうえで重要な視点での質疑がありました。

約400件の発表のうち、斜面災害に関する発表がもつ



浦越拓野  
構造物技術研究部  
トンネル研究室  
主任研究員

とも多く、無人航空機を活用した調査や、多量の観測データを用いた解析など、最新の調査・解析技術に関する知見が得られました。

会場となったサンフランシスコは坂の多い町ですが、100年以上の歴史を有するケーブルカーや空港へ乗り入れている鉄道・BART、路面電車、バスなどの快適な公共交通機関がよく整備されており、市内移動はとても便利でした。



図1 筆者の発表の様子



図2 BART

正式名称：XIII IAEG Congress  
 開催国：アメリカ合衆国(サンフランシスコ)  
 期間：2018/9/17～21  
 主催：International Association for Engineering Geology and the Environment  
 開催頻度：4年に1回  
 次回開催予定：2022年 中国(成都)  
 ホームページURL：http://iaeg.info/